

男女がともに担い、組織強化をすすめ、  
職場の男女平等やワーク・ライフ・ balan  
スの確立を目指そう！

## 『男女がともに担う自治労北海道 第4次計画』の推進に向けて

網走地方本部では、6月14日に組織集会を開催し、6月6日の道本部中央委員会において組織等議案として付された「組織強化拡大第12次長期計画」と「男女がともに担う第4次計画」を分科会1（組織強化について）と分科会2（男女がともに担う運動について）に分かれ討論を行いました。

分科会2では、津別町職と置戸町職より「単組における男女とも運動の状況」について報告を受け、その後、二十数名の参加者が4班に分かれワークグループ（以下「GW」という。）により、

- ①2年前と比較した男女とも運動の現状
- ②女性部と男女とも運動の推進
- ③すくじ取り組めること

の3つについて課題・問題点の洗い出しと整理を行いました。

分科会の狙いは、各単組における議論の豊富化をはかるための一つの技法としてGWによる『気づき』を参加者全員で体験することに主眼を置き実施しました。



①では、多くの単組で「女性役員」の担い手が少ない現状にあり、家事・育児との兼ね合いや保育士・看護師といった現実の職場の組合員が多く、役員を担うのが難しいといった問題



題点があげられていて、一方、「組合員がそれぞれできることをする」ことが大切で「役員にとられなくてもよいのではないか」という意見も出されました。

②では、女性職員が多

くなってきているほか「男性だけの活動では解決できない問題がある」とする一方「女性も男性もきちんとした問題把握ができていないのでは?」「男女とも：が進めば、基本組織の運動に集約されるのでは?」といった意見もありました。

③では、「男女とも」とは何か?を学習するとともに、各種会議などの情報を伝え、日頃からのコミュニケーションをはかることで、仕事を含め、「男女がともに担う」ということが進んでいくのではないかという意見が出されました。

道本部・竹中臨時執行員より、女性の活動が盛んな空知地本の取り組み事例を紹介していただき、『女性専従者誕生のきっかけや各種会議への出席目標について職種別男女比率を参考にし、女性が参加しやすいように工夫をしたことや、女性の会議を基本組合で主催し、男性も出席するなど、従来の「女性のことは女性」という発想を変えた取り組みを進めてきた。理想は、男性・女性・現業など意識しないで運動に取り組めるようになることと感じている』との話がされておりました。